



上海・蘇州・無錫

(1)



かつての租界の建物にはすべて中国国旗が…

十月末まで上海万博が開催されている。見る時間より待つ時間のほうが長いようで、短期間の海外旅行には不向きであり、また特に見たいとも思わない。しかし中国政府は大変な力の入れようで、大阪万博を上回る七千万人の入場者を目標にしている。が、今のところ評判は余り良くない。そのため上海行きは飛行機の空席を埋めるために上海万博ではなく、上海・蘇州・無錫をめぐる超安値のツアーが企画されたと思われる。

ちようど私が希望するコースが何と二泊三日で二万円という情報

がファクスで届いた。しかし、もともと中国旅行が余り好きではない妻は体調の悪いこともあり「NO」。そこで毎週一回、我が家で開いているキリストに関する本の読書会のメンバーの男性に話を向けると「OK」。同じ旅行社の万博ツアーは夕食なしで三倍の値段。旅行中、ほかの旅行者にはツアー料金は言わないと一筆書かされると、ますます安く思える。

全食付きで燃料サーチャージ・空港税にオプションの上海ナイトクルーズ、蘇州ナイトクルーズを加えても三万五千円にもならない。

これも話題の一つ、かくして男二人で二泊三日の中国への旅に参加したのである。

上海への旅の魅力の一つは、福岡からわずか一時間半で行けること。さらに上海から少し内陸に入ると魅惑の庭園都市・蘇州や無錫に行けることである。格安ツアーのため同

行添乗員はなし。妻との旅の場合、車いすの手配などのために添乗員がいた方がいいが、男同士二人旅、空港で出迎えてくれる現地ガイドで十分である。

以前、北京に行った際、現地ガイドから「参加者はあなた方二人だけです」と言われた時はびっくりした。

結果的には個人的希望も聞いてくれ、大変満足な旅となったが、もし悪質な現地ガイドでどこかに連れて行かれたらという不安が多少あった。しかし今回は三十人のツアー、大型バスでの移動でも空席があり楽であった。

狭い日本とは違い、日本の領土の約二十六倍という広大な中国。上海万博のために道路網は整備され、道幅も広く、大きな曲線を描く立体交差のハイウェイは自動車王国アメリカとそん色ない。

共産党一党独裁の国、中国。土地はすべて国のものであり、高速道路が直線であるの

も、トラブルもなく立ち退きができたからだとガイドは言う。

上海万博の資料に、百六十年の世界博覧会史上初の発展途上国の開催とあった。

車窓から見る上海の街、これが発展途上国と言えようかと思う。

国内総生産（GDP）は日本を抜いて世界第二位の経済大国になるのが確実と言われているのに、発展途上



上海万博マスコット、ハイバオ(海宝)と同行した近藤さん

国とは中国に対して失礼だろう。

ところが先日、カナダで開かれたG20首脳会談で胡錦濤主席は「中国は発展途上国」と繰り返し述べたという。

これは大国の責任回避としか思えない。

次回から超格安ツアーで見た私の中国観を報告する。

(元山口放送取締役ラジオ局長)